

## 議題1 史跡下寺尾官衙遺跡群・史跡下寺尾西方遺跡確認調査について

### 1 調査の進捗

下寺尾遺跡群等保存・活用部会の御指導・御助言を受けて、次のとおり調査を進めた。

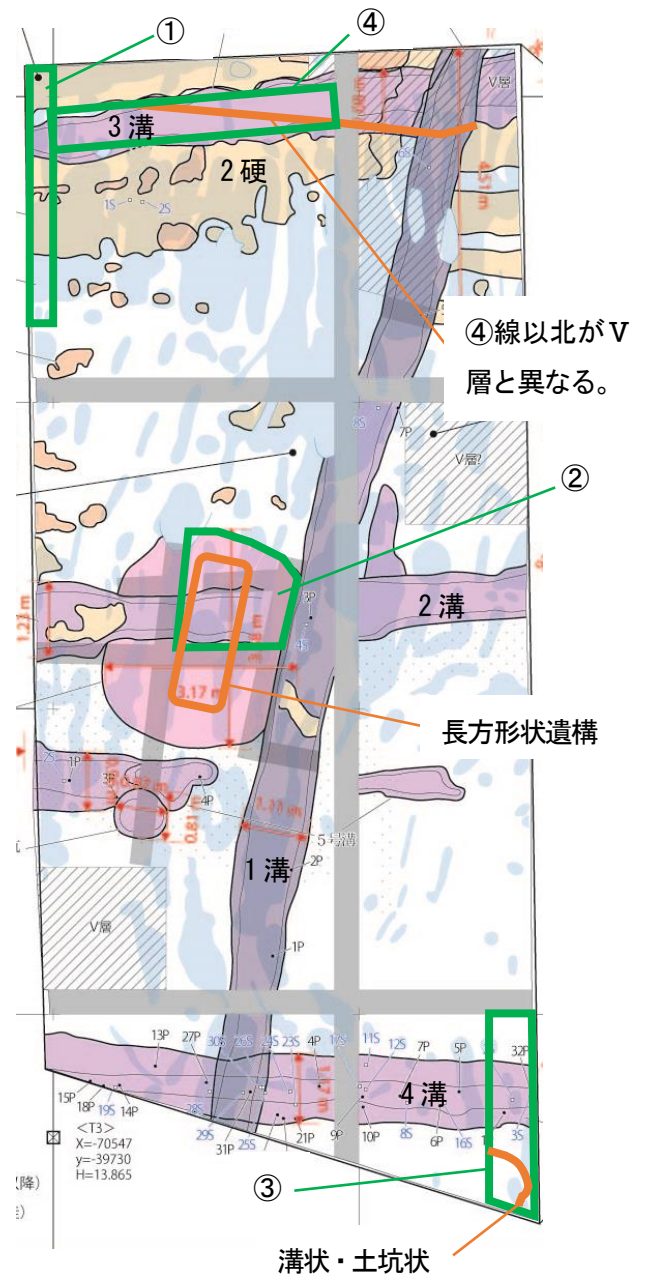
#### ① 1号硬化面を記録後除去し、2号硬化面西側にサブトレンチを設定

細いサブトレンチにて1号堅穴状遺構を確認した面（V層黒褐色土）を確認。宝永火山灰を含む層（II層）の下層にあるIII層（近世から中世か）中に1号硬化面がわずかに残存していることを確認。2号硬化面はIII層下に形成され、一部V層上面にも確認された。古代から中世の包含層と考えられるIV層は確認できなかった。2号硬化面の厚さは最大で2cm程度。

硬化面が東西方向に延伸することや2号硬化面に轍のような窪みも見受けられることから硬化面は道状遺構と考えられる。2号硬化面が形成された過程でIV層が削平されたと考えれば、2号硬化面は少なくとも古代から中世以降と判断することができ、比較的薄い硬化面であることと道状遺構が一定期間踏襲されることを考慮すれば、1号硬化面が形成される中世から近世に近い時期（古代というより中世寄りか）と判断される。（ただし、III層を供給源としている1号溝に切られているため、それ以前）。

#### ② 2号溝を記録後除去し、1号堅穴状遺構調査を調査

覆土の掘り下げを行ったところ、堅穴の縁辺がしまり、中央・南北方向にソフトな土が堆積していることを確認。中央が窪むレンズ状堆積故の堆積か他の遺構が切り合う可能性を考え、ベルトの土層を併せて確認したところ、堅穴状遺構を切る長方形のプラン・土層を確認。東西ベルト際を掘り下げたところ、黒色土を確認（写真1・2）。黒色土は地山のようなが、標高的にはFBなどの層位に代



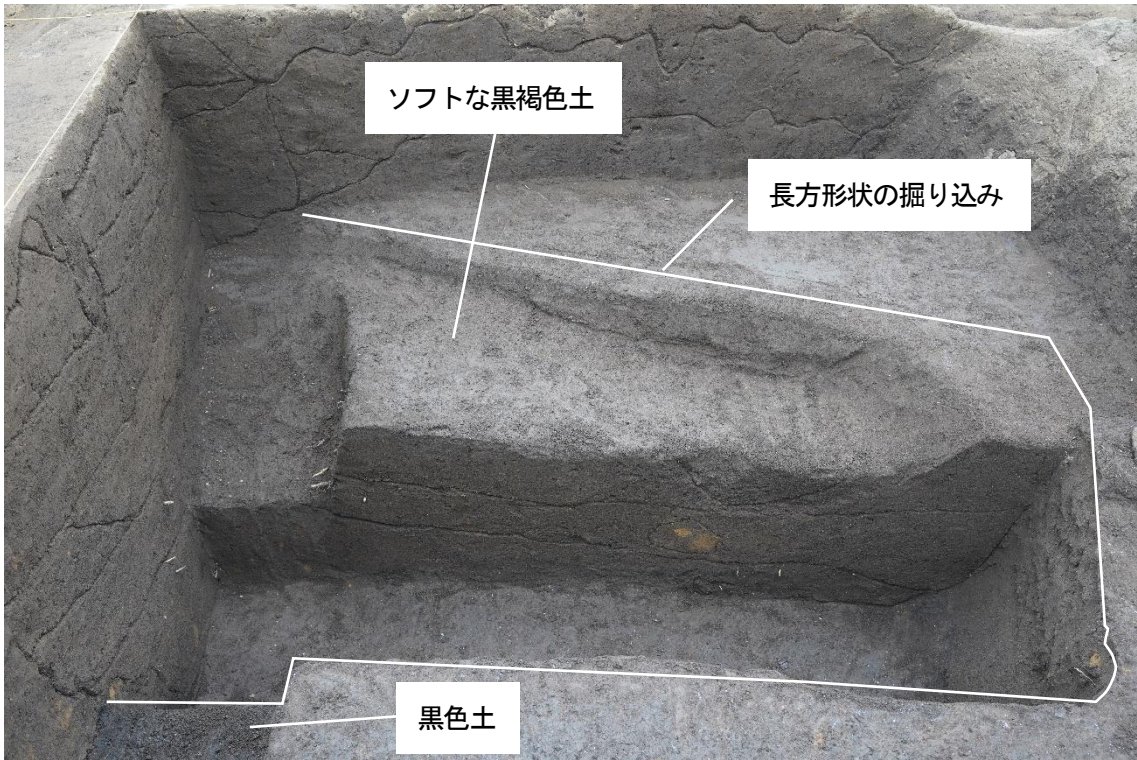


写真1 1号竪穴状遺構北東部 土層堆積状況 (東から)

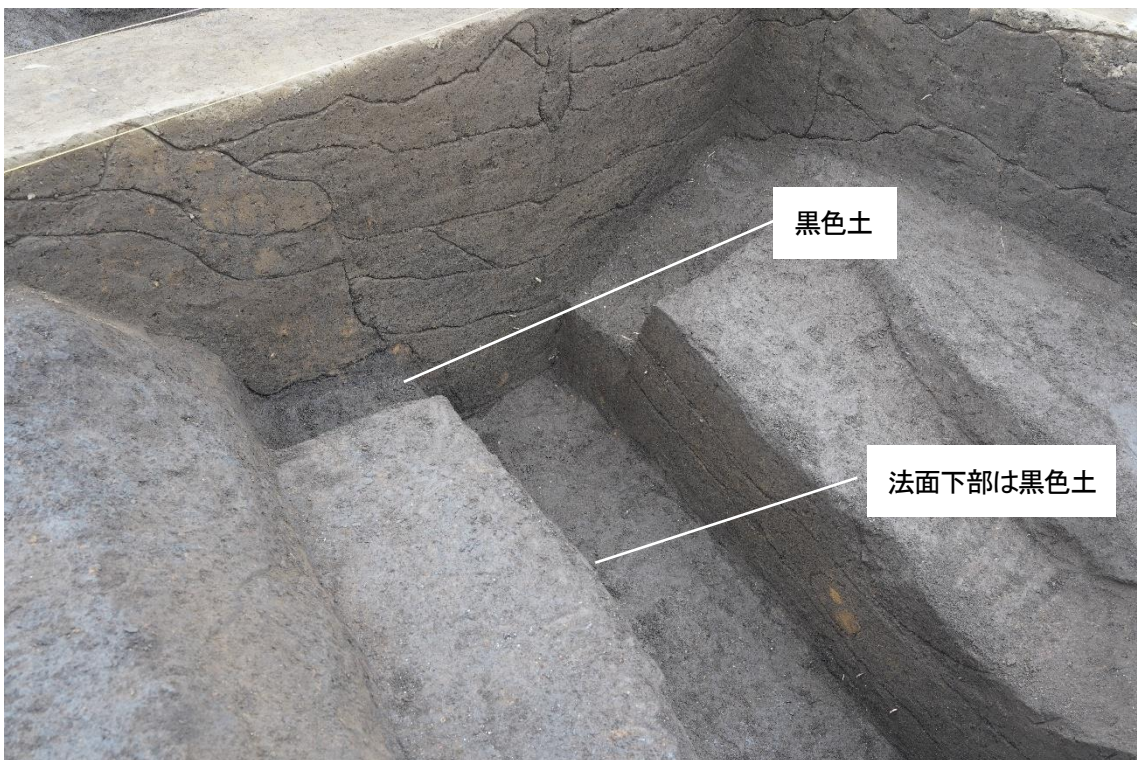


写真2 1号竪穴状遺構北東部 土層堆積状況 (北から)

わっていてもよい高さであり、覆土の可能性あり。

#### ③ 4号溝南東側にサブトレンチを設定

4号溝南側は北側と土質が異なっており、下部に遺構が存在する可能性があり。サブトレンチ調査の結果、4号溝の覆土を供給しているIV層の下に細かい橙色スコリア量が増す土層（V層とは異なる）が存在しており、土層を除去すると遺構のプランが確認された。確認された遺構は溝状または土坑状を呈しており、部分的に掘削したところ、4号溝より深い遺構のようである（底面未確認。西方A遺跡第1次調査の落ち込みに対応する遺構の可能性が有る。

#### ④ その他

3号溝部分にサブトレンチを設定し、面的に掘り下げを行った。V層を確認したが、北側は類似するが異なる土が入っているようである。併せて1号溝の法面を利用して分層したところ、大粒の黒色スコリアが入る土が北側に向かって緩やかに落ち込む様子がみられ、遺構か地形的な落ち込みが存在している可能性がある。

## 2 今後の調査の方針

①の硬化面については、y=39725 南北ベルト東側にサブトレンチを追加し、硬化面の堆積状況と下部遺構の確認を行う。②の堅穴状遺構については、現在設定しているベルトを40cmから30cmにスリム化しながら、ベルト際にサブトレンチを設定し、堅穴状遺構と長方形の遺構の関係を確認する。③の新規遺構については、サブトレンチ内で遺構の深さを確認する。平面的な確認については、4号溝南肩を残しつつ最小限の確認としたい。④については①のサブトレンチを活かし、土の堆積を確認する。自然の落ち込みではなく遺構と判断される場合には再度平面的なプランの確認の上、壁際・ベルト際にサブトレンチ調査を試みる。

## 3 現地説明会

令和7年1月25日（土）に本調査の現地説明会を実施した。参加者は午前8名、午後5名の合計13名。参加者の約8割が市内にお住まいの方。